



人身事故・設備事故の撲滅に向けて

北陸電話工事株式会社

1. はじめに

北陸電話工事グループは、未来永劫、事故を発生させないとの強い決意のもと、安全が最優先であることを全社員1人ひとりが再確認して安全作業の徹底に取り組んでいます。

具体的には、労働安全衛生マネジメントシステム (OHSAS 18001) に、品質マネジメントシステム (ISO9001) と情報セキュリティマネジメントシステム (ISO27001) を合わせた「統合マネジメントシステム」を構築して運用しています。

この統合マネジメントシステムの基本理念である「責任ある仕事に徹し、お客様の信頼を得る」を元に、「安全衛生、情報セキュリティの確保と品質の保証を徹底し、お客様に満足いただける製品とサービスを提供する」を行動指針として、毎年示される社長の年度事業運営活動方針を受けて、各組織で方針を実現するための施策活動計画を立てて目標を設定 (Plan)、実施 (Do) し、四半期ごとに目標達成状況を分析・レビュー (Check)、改善 (Action) し、安全衛生と品質、情報セキュリティに関する目標達成を図っています。

ここに北陸電話工事グループの安全・品質に関する主

な施策をご紹介します。

2. 基本動作、基本ルール順守の徹底

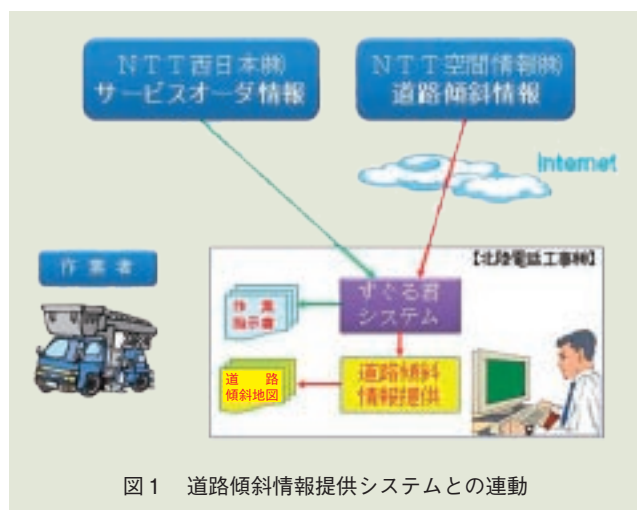
(1) 2Wayコミュニケーションによる基本動作の徹底 (道路傾斜情報提供システムと連動)

当社では毎日多くの工事班が各地で工事を行っており、安全作業の基本動作を徹底するために2Wayコミュニケーションを実施しています。2Wayコミュニケーションとは、現場作業者と当社の事務所とで双方向通信によって安全動作の確認を行うことをいいます。

労働安全衛生規則では、事業者は高所作業車を使って作業を行うときは、あらかじめ作業場所の状況を確認して作業計画を作り、作業者に周知しなければならないこととなっています。

このためNTT西日本様とNTT空間情報様の協力を得て道路の傾斜状況が地図上に表示されるシステムを導入しました (図1・2)。

道路傾斜情報をオーダと一緒に作業者に作業計画書として周知することにより、作業者は事前に工事場所付近の状況を確認し、適切な駐車場所の決定やバケット車の進入経路を決めることができます。したがって、確実に



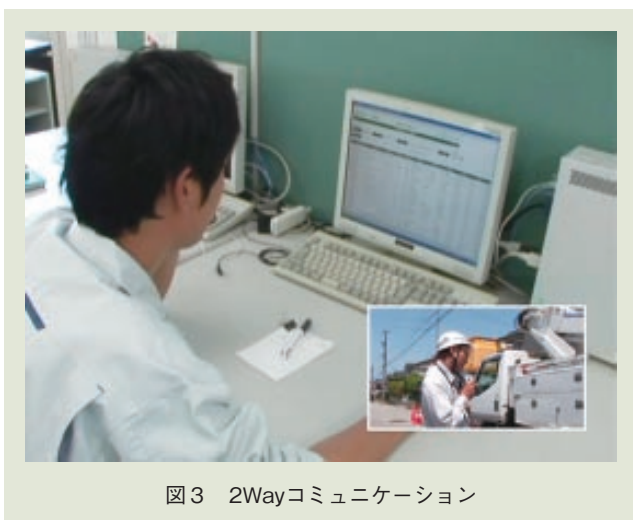


図3 2Wayコミュニケーション

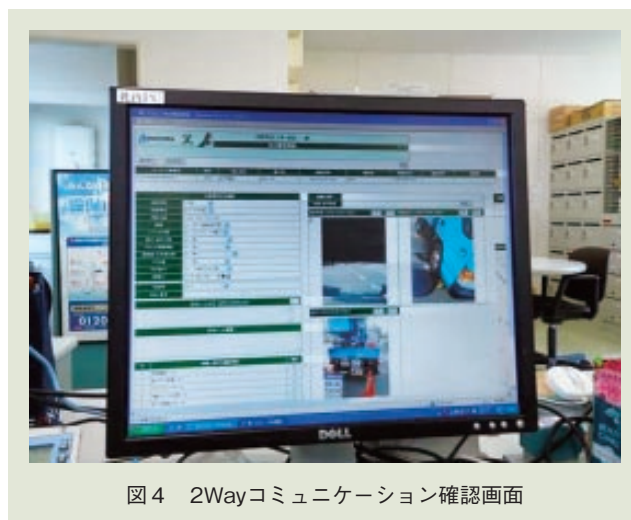


図4 2Wayコミュニケーション確認画面

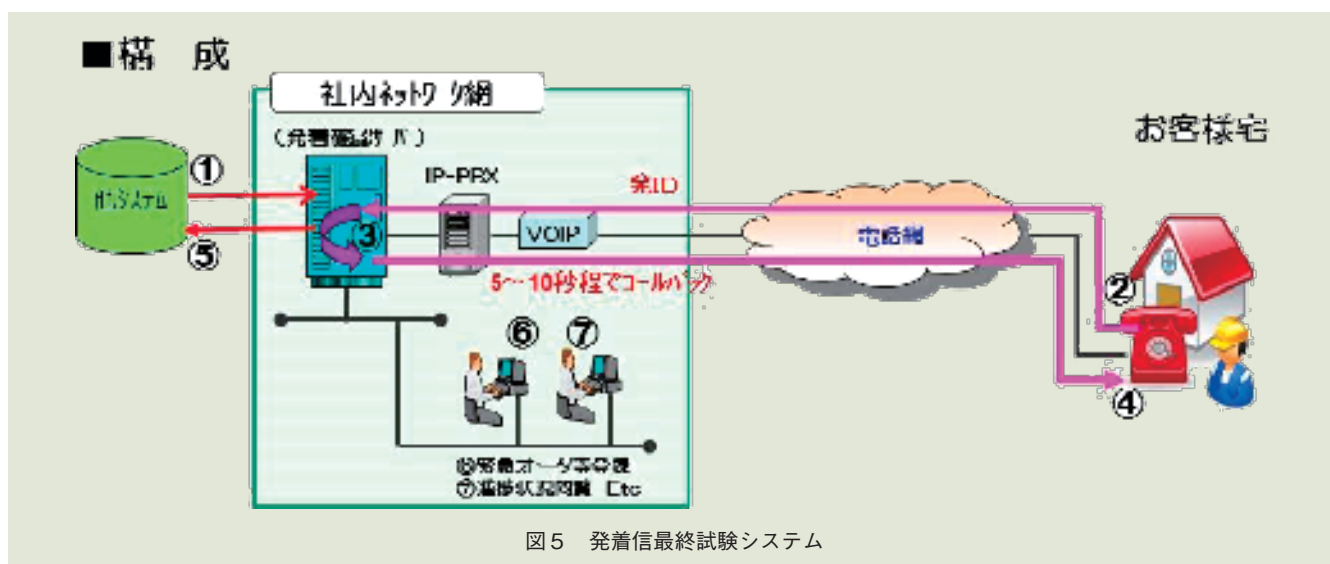


図5 発着信最終試験システム

前下がり駐車することができ、現地でUターンをすることもなくなり、安全で効率的な作業を行うことができます。

工事当日は、工事班は工事場所に到着して、角度計確認、輪止めを行い、保安施設を設置して携帯電話で各々の写真を撮り、事務所に送信して電話し、両者で傾斜地図や写真により基本動作の確認をしています（図3・4）。これにより、前下がり駐車、輪止めの密着設置、保安設備による第三者保護の証跡を残すとともに、当社と協力会社一体となって最前線での事故防止に取り組んでいます。

(2) 発着信最終試験システムによる誤接続防止

ユーザ系の開通工事でのメタルおよび光回線の発着信

試験システムを導入して誤接続を防止しています（図5）。他システムからの開通工事情報を発着確認サーバに取り込み、工事班が工事实施後にお客様の電話機からフリーアクセスの番号で発着確認サーバに発信するとサーバからコールバックがあり、ガイダンスされる番号がお客様の電話番号であることにより確認しています。これにより従来の工事班が携帯電話でお客様の電話と発着信試験を行っていた方法より携帯電話料金の削減につながるのと同時に試験証跡の記録ができ、1回の発信動作で試験ができるために効率的になっています。

(3) 指差呼称の推進

錯覚、誤判断、誤操作の防止、作業の正確度の向上に向けて、指差呼称の徹底は安全サイクルの基本と位置付



図6 バケット車への指差呼称シール貼付



図7 脚立への指差呼称シールと滑り止めの貼付



図8 危険体感研修模様



図9 小集団活動での事故事例検討会

け、まずは身近なものから取り組むようにしています。バケット車作業ではサイドブレーキ、施錠、輪止め、地切り、水平、検電、フックの指差呼称を確実に実施するためのシール（図6）を貼付し、ヒヤリ・ハットが最も多い脚立作業では指差シール貼付と滑り止め貼付（図7）の徹底に取り組んでおり、さらに指差呼称の重要性認識に向けて安全体感装置による訓練も計画しております。

(4) 密着指導プロジェクトによる安全作業指導

工事班に1日密着して、車両駐車から指差呼称、作業全般の安全行動を監視し、指導するチームを編成し、安全作業を習慣化する取組みを行っております。

3. 安全衛生意識の高揚

(1) 危険体感研修、小集団活動での事故事例検討会

平成24年度から開始した高所作業車危険体感研修も3年目を迎え、事故防止意識の風化防止に取り組んでいます（図8）。また、昨今の人身、設備事故の教訓を踏まえて、NTT西日本北陸の統一施策である小集団活動での事故事例の検討会（図9）も積極的に導入し、職長研修や新規入場者研修においても、自職場チェックと再発防止に向けた注意喚起を実施しています。

(2) ヒヤリ・ハット事例集の作成、配布

安全衛生活動の諺「危ない事は怪我のうち。ヒヤリ・ハットもケガのうち」にあるように、危険とケガは隣り

合せであり、危ないことの中にケガが潜んでいます。「ヒヤリ・ハット」も発生させないように、職場に潜む「潜在危険」を捜し出し撲滅していく必要があります。毎年、協力会社から収集したヒヤリ・ハットをまとめて、事例集として共有しています。

(3) 安全パトロール状況のシステム化と優良事例（ほめるパトロール）の水平展開

管理者、安全専任者、工事責任者が実施する安全パトロールは年間2,000件を超える件数となりますが、パトロールの都度、実施者がシステムに投入し情報の共有化を行っています。

また、不安全状態と不安全行動の発見時は口頭指導、イエローカード、レッドカードの発出、注意喚起を実施しているところですが、優良事例の水平展開の観点から「褒めるパトロール」を推進し、優良事例と判断した工事班には、後日、協力会社の社長を通じて表彰を実施しています。

(4) 標語ポスター（安全、品質、情報、コンプライアンス）と月ごとの事故防止重点取組み

事故の撲滅、品質の向上、お客様情報などの適正な取扱い、コンプライアンス順守の徹底に向けて社員1人ひとりが意識向上を図ることを目的とし、毎年、標語を募集し優良作品をカレンダーとして掲示し注意喚起を行っています（図10）。また、併せて、月ごとに「事故防止の重点取組み」を決め、月初めの安全朝礼では過去の事故事例の再確認とともに周知して事故防止活動の一環としています。

4. 事故防止対策委員会によるマネジメントサイクル

全社全部門における事故未然防止対策、実行計画の定着化を図る目的で定足した事故防止対策委員会では、これまでの取組み施策などの棚卸しを行い、現場第一線の作業員の不平・不満が収集できる仕組みや「やりたくてもできていないところ」がフォローできる仕組みを、協



図10 標語カレンダー

力会社と連携してマネジメントサイクルとして構築することにより、作業員1人ひとりが納得感をもって「安全基本動作」を順守していくことを基本として取り組んでいます。具体的には人身事故の未然防止を重点にした『事故未然防止実行計画管理表』を策定して、未然防止施策の日々の実施結果とパトロール結果により評価して改善する活動を行っています。

5. おわりに

1年間の無事故が次の年も継続するとは限りません。継続的な安全衛生マネジメントサイクルを維持するために、リスクアセスメントに基づいたリスク低減策の実施、きっちり工事運動の推進、当社と現場との密接なコミュニケーションの実施、ヒヤリ・ハットの減少に取り組む、人身・設備事故と情報漏洩・コンプライアンス違反の“0”を堅持するとともに品質向上、お客様サービスの向上に向けて取り組んでまいります。